



オスプレイの運用が予定されている建設中のヘリパッド＝8月23日、東村高江

危険の回廊

—オスプレイ全県飛行の実能

米軍北部訓練場（国頭村、東村）に囲われるような場所にある東村高江の集落。この集落周辺で、同訓練場の一部返還に伴

うヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）6カ所の建設工事が進んでいる。オスプレイは配備後、

に散在していたへ
ち6カ所が集落周
る高江にとつては
が予想される。

7月から移設工事が急ピッチで進むことに、伊佐さんは「高江に集中し過ぎていて」と強調する。

東村高江

訓練“拠点化”で負担増

そこで訓練が予定されている。集落に最も近い既存のヘリパッドは低空飛行ルートの始点で、訓練数が多くなる。高江が「オプスプレイ訓練の拠点となることに、住民の不安は一層高まっている。その一人、伊佐真次さん(50)は「機能強化だ。許されない」と厳しい口調だ。オスプレイに関する米海兵隊の審査書は、同訓練場12カ所の

オスプレイが訓練する 米軍北部訓練場の低空飛行 ルートとヘリパッド

- 既存のヘリパッド
 - ▲ 新たに建設される
ヘリパッド



「機能強化」住民の不安一層

米海兵隊の審査書は、離島陸時にへりから放たれる下降気流によつて、ヤンバルクイナが巣を放棄するなどの影響を認めている。

は、現行へりがそこを始点に低空飛行訓練「地形飛行訓練」を実施しているが、オスプレイもいつの訓練を行な予定だ。15-61号の低空を飛ぶこの訓練は訓練場内を絶路としているが、実際の運用では、訓練場内を縫つとうに敷かれた公道の上空も飛行する。

調した

(仲村良太)